

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：わかば保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	[取り組み状況] 法人の理念である「礼節」「忍耐」「誠実」を基本に「きらりきらりわかばっ子」を保育目標に定めている。 そして、一人ひとりの子どもの気持ちを丸ごと受け入れ、子どもの自主性を大切に感性の育ちを願う保育を目指して、それぞれの年齢ごとに保育計画を立案している。 [検討課題] 園の提供する保育課程について、保育指針の改訂にともなう全体的な計画の作成を進めて継続性を明らかにするとともに全職員へ周知し、クラスごとの計画を年度ごとに見直し共有していくことで、保育目標に沿ったより良いものに進化すると理解したい。
					■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
					■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。						
■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。						
(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	[取り組み状況] 園舎の周りは畑、住宅、老人施設など自然豊かな環境である。1階は0～3才児、2階は4・5才児の部屋で、2階に登る階段は勾配もゆるやかで、踊り場からは給食室の中の様子が見え、子ども達は楽しみに見ている。階段や廊下の柱や壁には、子ども達の行事の写真が展示されている。 園庭も広く、エントランスなどの花壇にはチューリップなどの苗が植えられている。 [検討課題] 全体的には子どもが落ち着いて過ごせる環境が保たれており、子どもの見立てや実態を考慮した、個を意識した更に落ちつけるコーナーを作るなどの室内環境の設定の工夫を期待したい。		
			■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。			
			■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。			
■ 9 内装等には、木材を利用している。						
□ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	□ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの良さを認め、子どもの気持ちを受容するように心がけている。そして、個人記録の記入で子どもの発達、家族環境の把握に努めている。 [検討課題] 今年度よりラーニングストーリーを導入するとの計画なので、どのようにして子どもの良い所や肯定的に捉えるのかなどを話し合い、職員間で共有し、研修していくことでより質の高い保育の提供が可能と思われる。 そのことにより、保護者の理解も増し、成長の喜びを共に感じることもより進むと思われる。			
		■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。				
		□ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。				
		■ 16 子ども欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。				
		■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。				
		■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>[取り組み状況] 感染症の予防に気を配り、手洗いは特に重点を置いて、手の洗い方も洗面所に展示しており、使い捨ての紙タオルも用意されている。また、年令ごとに食事、排泄、睡眠、着脱、清潔について保育計画の中に明記し、毎日の生活の中で習慣化されたものとなるように、生活のリズム化に努めている。</p> <p>[検討課題] 0・1才児は家庭との連携で、2・3才は自立を、4・5才児は習慣化できるような見通しの持てる基本的な生活習慣のリスト化などが期待される。</p>
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 □ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていこう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>[取り組み状況] 戸外での遊びが多く、特に多種類の野菜の栽培は子ども達が活発に身体を動かしており、本能である「生きたい、知りたい、仲間になりたい」の三要素が育まれている。 また、畑仕事を手伝うほかほか畑応援隊など、地域の人と接し学ぶ姿もある。</p> <p>[検討課題] 個の可能性の意識を高めて、子どもの主体的、選択の自由などを考慮した自由な創作活動やそのゾーン設置などの工夫が期待される。 また、散歩コースや野菜栽培については年間計画を作成するなどして、ねらいを明確にするなどして保育士の意識付けを図り、継続性を持った保育の展開・発展も期待したいところである。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>[取り組み状況] 床暖房の陽当たりの良い部屋で、オムツ交換のマニュアルを作成し、食事の配膳とオムツ交換の保育士を別にする配慮の下で、保育士や友だちと関わり合いながら安心して遊ぶ姿を視る事ができる。 そして、連絡帳には家庭の様子、園での様子をお互いが記入して、子どもの成長の喜びを共有している。</p> <p>[検討課題] オムツ台、ベッドの配置などの保育環境の改善、園の特色である「科学の芽」を意識した、ハイハイなど、乳児の探索活動が可能となる保育環境の工夫も期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> 戸外遊びを多くとり入れている。ぼかぼか畑では野菜の栽培を楽しみ、1階廊下の突き当りではいちごという名のうさぎを飼育し、餌を与えたり掃除をしたりとかわいがり、また、張りぼてのうさぎを製作をして、子どもの遊びに広がりをもたせている。 <p>[検討課題]</p> 子どもの発達に応じた探索活動や、動と静が混在する保育環境の整備が期待される。	
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> 3才児クラスはキャベツ、プチベールなどの野菜の栽培、4才児クラスはカイコの飼育、大豆の栽培から豆腐作り、5才児は田植えの経験を提供するなど、各年齢に応じた野菜作りや、小動物の飼育などが行われている。クラス、学年たよりは月1回配布し、ホワイトボードには毎日子どもの様子や行事の事などを掲示している。 <p>[検討課題]</p> 集団の中で子どもの個性が更に伸ばせ、自信が持てる保育の充実に向けて、各年齢での課題をリスト化するなどして全体計画に系統的に組み入れていくなど、子どもの声を大切にした保育、子どもから一歩引いて目を配る保育の実践へと、保育士の意識を高めることも必要と思われる。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> 支援の必要な子どもには加配保育士を配置して、同年齢のクラスで保育を提供している。また、医療の必要な子どもには保育士も同行し、個別支援計画も立案している。行政による巡回相談もあり、障害児保育事業報告書を作成・提出して、情報の共有をしている。 <p>[検討課題]</p> 発達障害についてなど、園内の研修を充実させて、職員間での障害についての意識・スキルなどのレベルアップを図り共有を進め、保育の手立てを工夫できる保育士の活躍が期待される。園舎内のバリアフリーについては子どもだけでなく、保護者・祖父母などへの配慮も今後の検討が必要と思われる。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	<input type="checkbox"/> 59 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 61 <input checked="" type="checkbox"/> 62 <input checked="" type="checkbox"/> 63 <input type="checkbox"/> 64 <input type="checkbox"/> 65	<p>1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>[取り組み状況] 未満児、以上児と別部屋で保育を提供し、以上児は多目的ホールで出席を確認して、絵本を読んでもらった後、リズム室で遊んだりして過ごしている。5時に片付けをして、クッキーやお茶などのおやつを提供もある。</p> <p>[検討課題] 時間によってカーペットやゴザなどで家庭的な環境の配慮を期待するとともに、延長保育児の出席簿だけではなく、その時間をどのように過ごしたのかの延長保育日誌などの導入で、日中保育での成長の証や改善事項の把握に活かすなど、新たな取り組みも期待したい。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	<input checked="" type="checkbox"/> 66 <input checked="" type="checkbox"/> 67 <input type="checkbox"/> 68 <input checked="" type="checkbox"/> 69 <input checked="" type="checkbox"/> 70	<p>計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>[取り組み状況] 市と連携した幼保小連携教育についての年間計画があり、就学児が学校へ年3回の交流や、小学校児童の保育園への1日來園、また、学校職員の保育園体験や小学校との交流・研修も行われている。</p> <p>[検討課題] 就学児の保育要録作成について、内容やその基とする根拠について職員間で共通理解を更に深める取り組みが期待される。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	<input type="checkbox"/> 71 <input checked="" type="checkbox"/> 72 <input type="checkbox"/> 73 <input type="checkbox"/> 74 <input checked="" type="checkbox"/> 75 <input type="checkbox"/> 76 <input type="checkbox"/> 77 <input type="checkbox"/> 78	<p>子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</p> <p>子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</p> <p>子どもの保健に関する計画を作成している。</p> <p>一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</p> <p>既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</p> <p>保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</p> <p>職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</p> <p>保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。</p>	<p>[取り組み状況] 毎月の体重・身体測定の実施で、健康と発達、発育状況の定期的、継続的な把握に努めている。 そして、既往症、予防接種の状況等は発育の記録から把握し、子どもの怪我や感染症の流行状況等を園長、主任へ報告している。</p> <p>[検討課題] 健康管理に関するマニュアル、保健に関する年間計画等の整備を進め、保健たより等の発行で季節に応じた情報、感染症の蔓延防止や予防等、園の取り組みなども保護者へ伝えるなど、情報提供の充実が期待される。 また、職員へのSIDSや窒息のリスク、応急処置に関する知識の習得の機会の充実、そして保護者へのそれら情報の提供は必要と思われる。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	評価細目	b)	■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	[取り組み状況] 健康診断、歯科検診は年2回実施し、結果を保護者に伝えている。 [検討課題] 虫歯などがあつた子どもには歯磨きの後に正しく磨けているかの確認、体重管理について課題がある子どもには給与摂取栄養量がきちんと取れているのかなど、各検査結果に異常がみられる子どもに対しては個別計画に加えるなど、常に保護者等と協力した保育の提供を意識したい。
	□ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。					
	■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。					
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	[取り組み状況] 入園前の面談にて食物アレルギーの有無を確認し、アレルギーのある子どもには医師の診断を受けてもらい、診断書をもとに市の栄養士、給食調理員、保護者、担任、園長、主任とで面談を行っている。 毎月、献立表を家庭に渡し除去する物をチェックしてもらい、併せて市の栄養士が確認する仕組みで、担任が毎日誤配のないように確認用ホワイトボードによりチェックしている。 [検討課題] アレルギー対応ガイドライン、アレルギー疾患、慢性疾患等に関する学習会を定期的に関開くなど、園内全関係者が共通の理解を更に深めていくことが期待される。	
	■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。					
	■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。					
	□ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。					
	□ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。					
	□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。					
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	□ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	[取り組み状況] 市の食育推進計画「元気もりもり食育プラン」や「食育計画」のもとに、給食が提供されている。 そして、園のぼかぼか畑では、ジャガイモ、大豆など、多くの野菜を育て、苗植え、水やり、観察することで、植物の生長に関心を持ち、収穫の喜び、また、食への感謝を知る取り組みをとおして、苦手な野菜も食べられるようになる子どももいる。 さらに、収穫した大豆を使つての豆腐づくりの経験もある。 [検討課題] 子どもの食生活の基盤は家庭にあり、望ましい食習慣の形成や食への意欲や関心を高めるため、園の食育計画(栽培計画)等、食育たより等の発行で、目的やねらい、そして子どもへの成果などを系統的にするなどして、保護者との連携を更に深める食育の新たな取り組みが期待される。	
	■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。					
	□ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。					
	■ 91 食器の材質や形などに配慮している。					
	■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。					
	■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。					
	■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。					
	■ 95 子ども食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。					

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<input type="checkbox"/> 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 <input type="checkbox"/> 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	<p>[取り組み状況]</p> 担当保育士が一人ひとりの食べる量、好き嫌いを把握して食べられる量を配膳し、行事に応じた献立、季節感のある献立、郷土食が提供されている。誕生会には保護者も招待され子どもと一緒に給食を楽しむ機会が設けられている。また、就学を意識した市の栄養士の来園による栄養指導や、給食の配膳も年長児では行われている。
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<p>[取り組み状況]</p> クラスの入口のホワイトボードに一日の活動の内容が報告され、当日の読み聞かせの絵本が展示されている。そして、未満児は毎日、家庭の様子が記入され、情報の交換が行われている。学年たより、クラスたより、園長たよりが発行され、ホームページを利用して保護者への情報を伝えている。また、保護者アンケートにより意向や要望を把握している。
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	<p>[取り組み状況]</p> 保護者との信頼関係を築く取り組みとして、降園時に保護者に引き渡す際の会話が盛んである。しかし、早朝や延長保育を利用している保護者からは話す機会が少ないという声も聞かれている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 b) <input type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>[取り組み状況]</p> 虐待等権利侵害の兆候を見逃さない様に、子どもの心身の様子を生活面、服装、身体測定等で注意を払って見ている。
3	保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<input type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 <input type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 b) <input type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>[取り組み状況]</p> 保育指導計画の月案に振り返りの欄が設けられ、保育実践の反省が記入されている。 また、職員は年度末には法人の自己振り返り表を使っての自己評価の他、園独自の項目による自己評価を行い、今年度の振り返りと、来年度への課題と気づきを認識する機会としている。